

2022 AC

1st. Celebrate Sukkot

原語で味わう創世記第1章

集中特別講座 10/9~16

12日(朝) No.6

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

①ヨハネの福音書5章39節

あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。

その聖書は、わたしについて証ししているものです。

【新改訳2017】

②イザヤ書 46章10節

わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。

※聖書のシナリオライターは時間と空間に支配されない永遠の神です。シナリオが歴史の中に突入する時、その初めと終わりが規定されることは当然のことです。

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

③イザヤ書34章16節

【主】の書物を調べて読め。
これらのもののうち、どれも失われていない。
それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。
それは、主の口がこれを命じ、
主の御霊がこれらを集めたからである。

※「自分の伴侶」にたとえられているのは、神のみことばの証言が必ず伴侶のように置かれているということの意味します。例えば、「千年」「十四万四千人」など。

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

●創世記1章に関する注解書は多く書かれていますが、その多くが宇宙(地球)の始まりと考えています。しかしアシュレークラスでは、創世記1章を「**神の永遠のご計画の全貌が啓示されている章**」という視点で学んで行きます。

【新改訳2017】ヘブル人への手紙 4章12節

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、**たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。**

●私たちが持っている「理解の型紙」(この世の知恵、常識、教理)という眼鏡を外して、霊を働かせることが不可欠です(Ⅱコリ5:16, 3:6)。私たちの霊の目が開かれるよう、シエーム・イエシュアの名を呼びつつ、学んで行きたいと思います。

1. 6節のテキスト 「大空」

6 神は仰せられた。「大空よ、水の真っただ中であれ。
水と水の間を分けるものとなれ。」

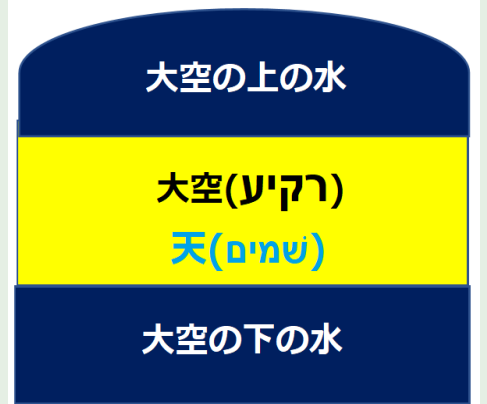
וַיֹּאמֶר אֱלֹהִים יְהִי רָקִיעַ בְּתוֹךְ הַמַּיִם וַיְהִי מִבְּדֵיל בֵּין מַיִם לַמַּיִם
水と 水 ~の間に 分けるものが するように 水の 真ん中に 大空が するように 神は 言われたそして

● 第二日は「大空」の創造です。「大空」と訳された「ラーキーア」(רָקִיעַ)は「蒼穹(そうきゅう)、天蓋(てんがい)、穹蒼(おおぞら)」とも訳されます。不思議な方法で、2節にあった「その水」(「ハツマーイム」מַיִם)を真っ二つに分けて(真っ只中に=בְּתוֹךְ)「ラーキーア」を造ります。

● 1節に「神が天と地を創造された」とありますが、創世記1章の「天」に関しての記述は、第二日の6~8節だけです。しかも、他の日に必ずある「神はそれを良しと見られた」というフレーズがありません。これはどういうことなのでしょう。それは「地」に対する神の関心が尋常でないことを物語っています。「光」と「昼」もたとえであったように、「大空」と「天」もたとえなのです。

2. 大空の下にある水と大空の上にある水 ①

7 神は大空を造り、
大空の下にある水と大空の上にある水を
分けられた。すると、そのようになった。



וַיַּעַשׂ אֱלֹהִים אֶת־הַרְקִיעַ
その大空 を 神は そして造った

וַיַּבְדֵּל בֵּין הַמַּיִם אֲשֶׁר מֵעַל לַרְקִיעַ
大空の ~の上にあるところの 水 ~の間を 大空 の下にある ところの その水 ~と そして分けた

וַיְהִי־כֵן:
そのように するとなった。

●前置詞の「ベーン・・ウーベーン」(בֵּין · · וּבֵין)は「**~と~との間を**」を意味します。何を「**分ける**」(「バーダル」בָּדַל)のかと云えば、「大空の下にある水」と「大空の上にある水」です。すでに4節でも「**光と闇とを分けられた**」とありました。7節にも神が「大空の下にある水」と「大空の上にある水」とを「分けられた」のです。そのように造られた空間が「大空」なのです。

2. 大空の下にある水と大空の上にある水 ②

7 「・・・すると、そのようになった。」 (קִיּוּמָה)

- 神のわざは、すべて神の口から出ることばによってなされます。

【新改訳2017】ヘブル人への手紙11章3節

信仰によって、私たちは、**この世界が神のことばで造られた**ことを悟り、その結果、見えるものが、目に見えるものからできたのではないことを悟ります。

- 神のことばと水は密接な関係にあります。

【新改訳2017】Ⅱペテロの手紙3章5～7節

5 こう主張する彼らは、次のことを見落としています。

天は大昔からあり、**地は神のことばによって、水から出て、水を通して成ったのであり、**

6 **そのみことばのゆえに、当時の世界は水におおわれて滅びました。**

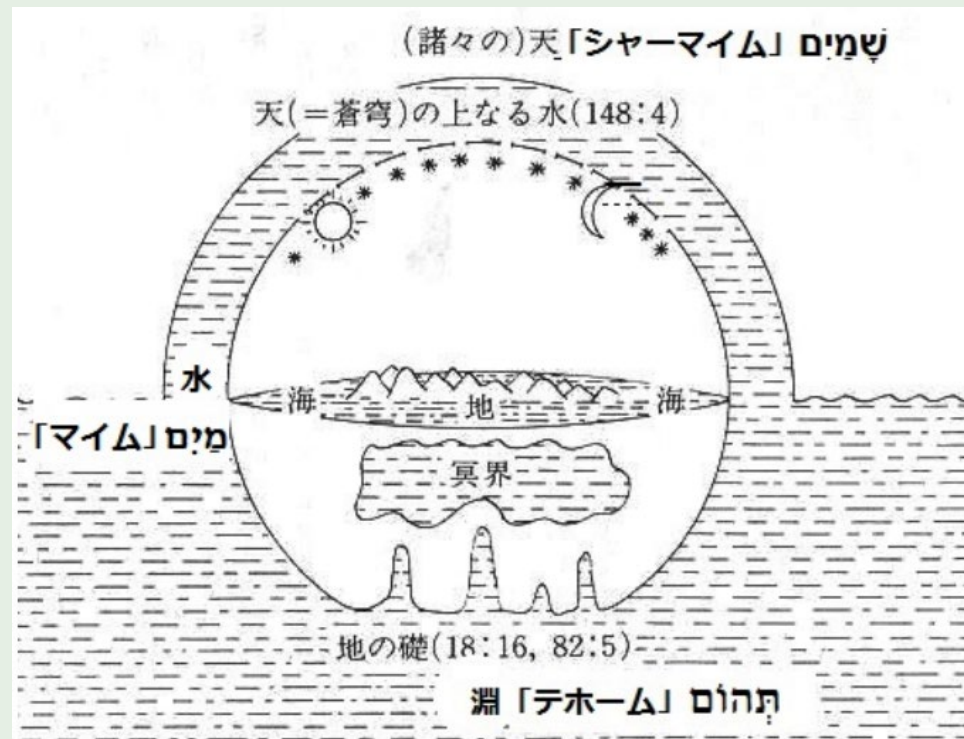
7 しかし今ある天と地は、同じみことばによって、火で焼かれるために取っておかれ、不敬虔な者たちのさばきと滅びの日まで保たれているのです。

2. 大空の下にある水と大空の上にある水 ③

8 神は大空を天と名づけられた。夕があり、朝があった。第二日。

● 「大空」(「ラーキーア」 לַאֲרָצָה)を「天」(「シャーマイム」 שָׁמַיִם)と名づけられたとあります。「天」は神がご自身の名を置かれるところです。幕屋の「至聖所」に相当するところであり(出25:8)、人間ならば「霊」(Secret Place)に相当する部分です。

● 「天の門」(創28:17)、「第三の天」(Ⅱコリ12:2)、「天の天」(詩148:4)、「もろもろの天の天」(申10:14)、「もろもろの天」(ヘブル4:14)、「天よりも高く上げられた大祭司」(ヘブル7:26)とあるように、ここでの天は何層もの階層があるようです。



▼ 旧約の宇宙観(二八16、二五、一四4等)。

2. 大空の下にある水と大空の上にある水 ④

●聖書の「水」(双数形「マイム」**מַיִם**)は「神のことば」のメタファーです。文字の「メーム」をよく観察すると、「開かれたメーム」(**מַ**)と「閉じられたメーム」(**מֵ**)があります。「開かれたメーム」(**מַ**)は「大空の上の水」を指し示し、「閉じられたメーム」(**מֵ**)は「大空の下の水」を指し示しています。「開かれたメーム」は天において神のことばが開かれていること、そして「閉じられたメーム」は地において神のことばに覆いがかかっていることを示しています。しかしやがてその覆いを取り除かれるとき、神のことばが完全に成就することになります。それはまさに「主の祈り」の「みこころが・・・地でも行われますように」の成就です。

【新改訳2017】マタイの福音書6章9～10節

- 9 『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。
10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように、
地でも行われますように。』



3. 「乾いた所」(「ヤツバーシャー」) ①

【新改訳2017】創世記1章9～10節

9 神は仰せられた。「天の下の水は一つの所に集まれ。

乾いた所が現れよ。」すると、そのようになった。

10 神は乾いた所を地と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。

神はそれを良しと見られた。

●神は「大空」を「天」と名づけられました。「天の上の水」では神のことばは開かれています。しかし「天の下の水」では神のことばが開かれていないために、神は「天の下の水は一つの所に集まれ。乾いた所が現れよ」と言って、そこを「**地**」と名づけ、水の集まった所を「**海**」と名づけられました。

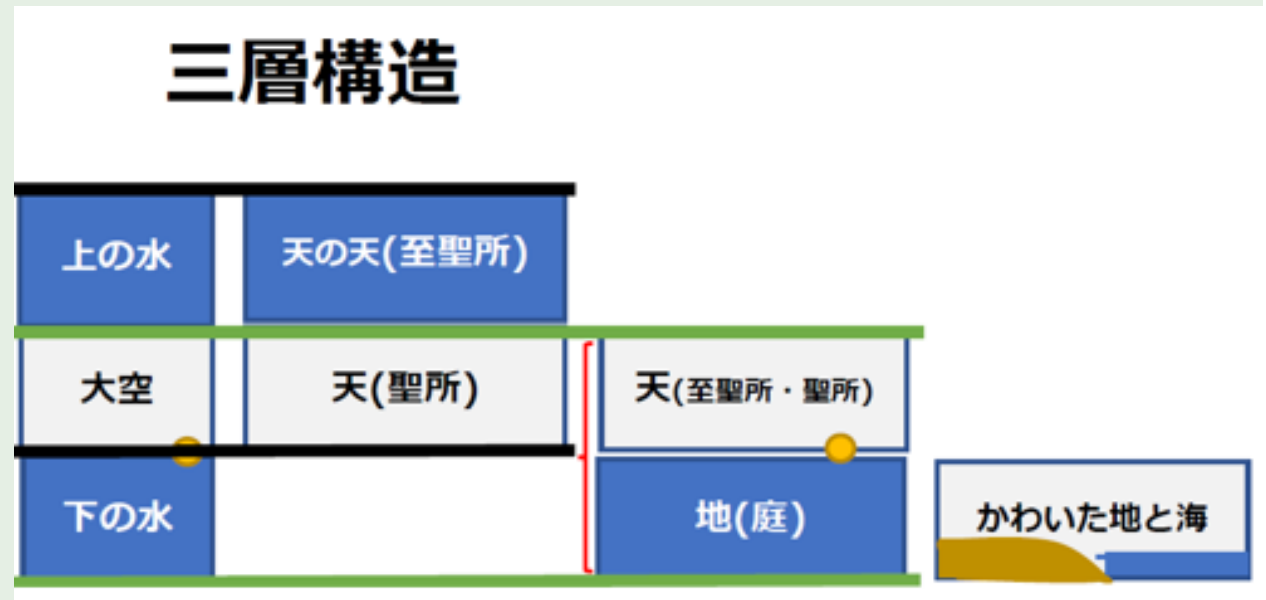
●「**乾いた所**」(「ヤツバーシャー」**קִשְׁיָא**)を「地」と名づけたことが重要です。なぜなら、その乾いた所を歩いた者たちがいるからです。その者とは誰でしょうか。「**イスラエルの民**」です。

3. 「乾いた所」(「ヤッバーシャー」) ②

●9節で、神は「乾いた所が現れる」ために「天の下の水は一つの所に集まれ」と仰せられます。それまで、「乾いた所」は水の中に隠れていたこととなります。しかし水が「一つ所」(「マーコーム・エハード」 מַרְקוֹם אֶחָד)に集められることによって「乾いた所」(地)と「水」(海)が区別され、境界線が設定されるのです。

●「乾いた所」と訳された「ヤッバーシャー」は、旧約で14回しか使われていません。それらをひとつひとつ丁寧に見ていくことで、この語彙がイスラエルにおいて特別な出来事と関係していることが分かります。訳語が異なっても、すべて「ヤッバーシャー」

(יָבֵשׁ)が使われています。新改訳2017だけでも「乾いた地面」「乾いた所」「乾いたところ」「陸」「陸地」と訳されています。



3. 「乾いた所」(「ヤッバーシャー」) ③

(1) 紅海渡渉した所

① 出エジプト記14章16節

・ ・ そうすれば、イスラエルの子らは海の真ん中の**乾いた地面**を行くことができる。

② 同上、14章21節

モーセが手を海に向けて伸ばすと、【主】は一晩中、強い東風で海を押し戻し、海を**乾いた地**(הַיַּבֵּשָׁה)とされた。

※注1 ここでは「乾いた地」の語彙が「ハーラーヴァー」(הַיַּבֵּשָׁה)となっていますが、意味としては「ヤッバーシャー」と同じ意味で使われています。

③ 同上、14章22節

イスラエルの子らは、海の真ん中の**乾いた地面**を進んで行った。水は彼らのために右も左も壁になった。

3. 「乾いた所」(「ヤッバーシャー」) ④

④ 同上、14章29節

イスラエルの子らは海の真ん中の**乾いた地面**を歩いて行った。水は彼らのために右も左も壁になっていた。

⑤ 同上、15章19節

ファラオの馬が戦車や騎兵とともに海の中に入ったとき、【主】は海の水を彼らの上に戻された。しかし、イスラエルの子らは海の真ん中で**乾いた地面**を歩いて行った。

⑥ ネヘミヤ記 9章11節

あなたは私たちの先祖の前で海を裂き、彼らは海の真ん中の**乾いた地面**を渡りました。追っ手は、奔流に呑み込まれる石のように、あなたが海の深みに投げ込まれました。

3. 「乾いた所」(「ヤッバーシャー」) ⑤

(2) ヨルダン渡河した所

ヨシュア記4章22節

あなたがたは子どもたちに『イスラエルは乾いた地面の上を歩いて、このヨルダン川を渡ったのだ』と知らせなさい。

(3) (1)と(2)を結合させた言及

詩篇 66篇6 節

神は海を乾いた所とされた。人々は川の中を歩いて渡った。さあ 私たちは神にあって喜ぼう。

● 「乾いた所」はイスラエルの救いの場であり、またそこに神がともにおられることを啓示しています。つまり「乾いた所」(「ヤッバーシャー」קַצְרָה)は、神とイスラエルとの関係が築かれる基軸的な場所でした。

3. 「乾いた所」(「ヤッバーシャー」) ⑥

(4) 終末時になされる神のみわざの場所として

イザヤ書 44章3節

わたしは潤いのない地に水を注ぎ、**乾いたところ**に豊かな流れを注ぎ、わたしの霊をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ。

(5) イスラエルの象徴として

出エジプト記4章9節

もしも彼らがこの二つのしるしを両方とも信じず、あなたの声に聞き従わないなら、ナイル川の水を汲んで、**乾いた地面**に注ぎなさい。あなたがナイル川から汲んだその水は、**乾いた地面**の上で血となる。

●ここでは「乾いた地面」がイスラエルと同義で用いられ、彼らの要求を拒絶することは神に対して反抗するものとして、神のさばきをもたらされるという警告的な意味となっています。そして事実、エジプト中の水が血に変わるということが起こりました(出7:20~25)。

3. 「乾いた所」(「ヤッバーシャー」) ⑦

(6) イスラエルが使命を果たす地として

① ヨナ書1章9節

ヨナは彼らに言った。「私はヘブル人です。私は、海と陸を造られた天の神、【主】を恐れる者です。」

② ヨナ書1章13節

それでも人々は船を陸に戻そうと漕いだが、そうすることはできなかった。海がますます彼らに向かって荒れてきたからである。

③ ヨナ書2章10節

【主】は魚に命じて、ヨナを陸地に吐き出させた。

● 預言者ヨナの行動と使命はイスラエルを代表しています。大きな魚の腹の中にいたヨナが陸地に吐き出されたのは、イエシュアの十字架の死と復活のしるしであるだけでなく、イスラエルがメシアを信じることによって諸国の民を祝福する使命が回復される「型」となっているのです(マタイ12:39~41)。そして、これはやがて「終わりの日」に実現することになります(マタイ24:14)。

3. 「乾いた所」(「ヤツバーシャー」) ⑧

- 神は「乾いた所」(קִשְׁיָה)を「地」(אֲרֶץ)と名づけられました。が、「地」と不可分の関係にあるのは「イスラエルの民」なのです。

【新改訳2017】ヨエル書 2章18節

【主】はご自分の地をねたむほど愛し、
ご自分の民を深くあわれまれた。

- 主にとって「ご自分の地」と「ご自分の民」とは同義的パラレリズムです。なぜなら、主のご計画は彼らに地を支配させることだからです。教会は彼らに接ぎ木されることで神の約束にあずかるのですが、その究極は詩篇8篇にあります。

「主よ 私たちの主よ、あなたの御名は全地にわたり
なんと力に満ちていることでしょう。」(1, 9節)

- 神の関心は「天」にではなく、なんと「地」にあるのです。

4. 「海」(「ヤツミーム」) ①

●ところで「乾いた地」が単数形であるのに対して、ここでの「海」は「ヤーム」(𐤎𐤓)の複数形「ヤツミーム」(𐤎𐤓𐤌𐤍)となっています。普通「海」は単数形で表記されます。ところが、ここでは複数形となっています。なぜでしょうか？ 考えてみてください。

●それは「乾いた地面」に象徴されるイスラエルに対し、それに敵対する国々が「海」にたとえられているからです。聖書においてイスラエルに敵対する国々といえば、イスラエルと接している国々です。エジプト、アッシリア、バビロン、エドム、モアブ、ペリシテ、ツロ、シドンといった国々がそうです。イスラエルの周辺諸国はすべて「ヤツミーム」(𐤎𐤓𐤌𐤍)に括られると考えられます。ちなみに「海の荒野」(イザ21:1)と言え、それは大バビロンのことなのです。「海の荒野」とは普通はあり得ない表現です。

4. 「海」(「ヤツミーム」) ②

● 「乾いた所」と「海」の境界線は明確であり、神がその境界線を守っているとエレミヤ書にあります。

【新改訳2017】エレミヤ書5章22節

あなたがたは、わたしを恐れないのか。 — 【主】のことば—わたしの前で震えないのか。わたしは砂浜を海の境とした。それは永遠の境界で、越えることはできない。波が逆巻いても勝てず、鳴りとどろいても越えられない。

● 海(𐤆𐤓𐤍𐤏)が、決して「越えることはできない」境である砂浜を越えて来るのは、イスラエルが神の声を聞こうとしない場合です。そのようにして、神は諸国である海を通して、繰り返しご自身の民イスラエルをさばき、矯正されるのです。



4. 「海」(「ヤツミーム」) ③

10節

神は乾いた所を地と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。
神はそれを良しと見られた。

●神は「**乾いた地面**」に象徴されるイスラエルの民と、「海」に象徴される敵対諸国とにはっきりと分けられました。神はイスラエルの民を矯正するために、それらの諸国を用いられました。そして、そのことを神は「良しと見られた」のです。なぜなら、それは神のご計画がみこころのままになされていくためです。神が究極的に創造される「新しい天と新しい地」では、イスラエルに敵対する「海」はもはや存在しません(黙示録21:1)。

今回のまとめ

●このようにして原文で見ていくことで、創世記1章は「地球の創造の話」ではなく、イスラエルを基軸とした神の民の再創造の物語であることが理解できるのです。しかも、それは「最後のアダム」であるイエシュア・メシアによって完成するという話が記されています。そのことはこれから学んでいくことになります。学びが進むにつれて、その輪郭はよりはっきりとして行きます。

●次回は、「乾いた所」である「地」に、種(=人となって来られたイエシュアのことば)のできる草や種の入った実を結ぶ木が芽生えるという話です。